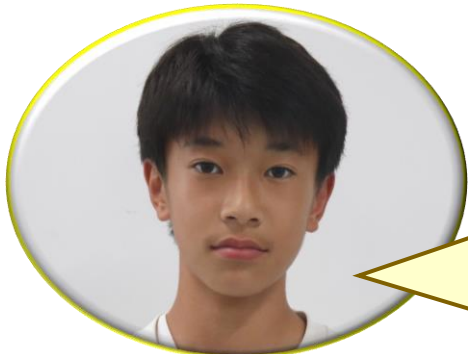




夏の大会に向けて～部活動・クラブチームの決意表明 Part I

本日、定期考査が終わり、部活動やクラブチームでは夏の大会に向けての練習が始まります。中体連大会やコンクール・クラブチーム選手権など、夏は各種目で最も重要な大会が続きます。夏季大会にかける生徒たちの思い入れは強く、9年生にとっては中学校生活最後の大会になります。そこで、部活動やクラブチームの代表者に大会への意気込みを書いてもらいました。(なお、代表者には県立入試の国語の大問4を想定し、200字以上240字以内でまとめてもらいました。)



【 サッカー部 花田 隆介さん 】

こんにちは、サッカー部の花田隆介です。僕たちサッカー部の目標は、6月24日、7月1・2日の宗像区大会で3位以上になって、筑前地区大会に出場することです。そのために、本番を想定して練習の時から声を出し、一つ一つのプレーを大切にしていきます。また、全員が万全な体調で大会に臨めるようにしていきます。一人一人が今できることを出し尽くして、悔いが残らない大会にしていきたいです。筑前地区大会に出場できるように全力を尽くしますので応援よろしくをお願いします。

【 女子陸上部 中村 遥花さん 】

こんにちは。女子陸上部キャプテンの中村遥花です。女子陸上部の中体連の目標は宗像区大会総合優勝、筑前地区大会総合優勝、県大会出場者6人以上です。そのために789年生全員で協力して練習してきました。9年生にとって最後の中体連なので6月23日にある宗像区大会で全力を出し切り、次へとつなげるようにしていきたいです。筑前地区大会では、一人でも多くの人が自己新を出す走りをして県大会へ進めるように頑張ります。応援よろしくをお願いします。



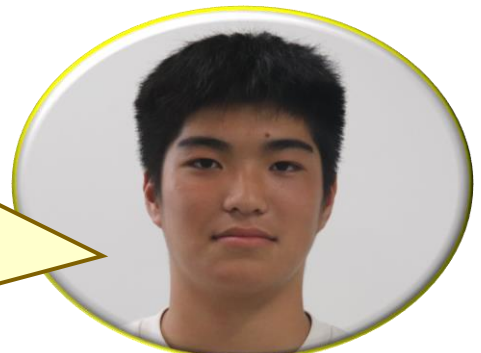
【 男子陸上部 橋本 隆太郎さん 】

こんにちは。男子陸上部キャプテンの橋本隆太郎です。今年の中体連では宗像区・筑前地区・県大会の総合優勝と九州大会や全国大会出場を目標に日々練習に取り組んでいます。目標を達成するために、「練習は本番のように、本番は練習のように」この言葉を意識して、一つ一つの練習で試合をイメージしながらチーム一丸となり、お互いを高め合いながら練習していきます。本番でも陸上部の横断幕のように闘争心を高めて一人一人が全力で戦います。応援よろしくをお願いします。



【 玄海ジュニアラグビークラブ 藤田 琉生さん 】

こんにちは。玄海ジュニアラグビークラブの藤田琉生です。今、4月30日から始まった県大会でベスト8にいます。目標は、県大会優勝を目指しています。そのために、細かい戦術やタックルなどの基礎を練習しています。次は、6月18日に伊都ヤングラグーズとベスト4をかけた試合があります。そこで勝って決勝に近づきたいです。9年生はもう県大会が玄海でラグビーをする最後の大会なので全力で楽しんで、全力で勝ちに行きます。応援よろしくをお願いします。



ボール拾いに明け暮れた日々 「僕のポジションは駐車場」 ～定期考査が終わり、中体連やクラブチームの大会・コンクールにのぞむ君たちへ～

本日、第1回定期考査が終わりました。待ってましたとばかりに、今日から中体連大会やクラブチームの大会、コンクールに向けて仕上げを開始する人が多いでしょう。特に9年生にとっては最後の大会ということで意気込みも一入でしょう。

さて、今回紹介するのは、ある部活動生の朝日新聞に載った作文です。30年前の話ですので、今では考えられないところもありますが、河東中生にぜひ読んでみてほしい文章です。

この作文の背景を少し紹介します。筆者は、サッカー部所属の部活動生です。マラドーナにあこがれて、日々サッカーの練習に明け暮れるのですが、レギュラーにはなかなか入れません。試合に出るところか、ベンチにも入れません。今の部活ではありえない話ですが、試合中は駐車場の車にボールが当たらないようにする役割を担います。本人はそのことを皮肉って、「僕のポジションは駐車場」と作文の題名に付けます。この作文が胸を打つのは、中学生時代、唯一出場した試合に親は弁当におめでとうと手紙を入れていた場面です。部活やクラブに頑張る子どもたちを親はいつも温かく見守っているものです。そのことを忘れずに大会への準備に取り組んでほしいと思います。



それでは、「僕のポジションは駐車場」という30年前の部活動生の作文を読んでみてください。

『小学校からサッカーを始め、プロ選手になりましたが、何と言ってもつらかったのは中学校の部活時代です。夏休みは朝から晩までボール拾い。しかも、ポジションはグラウンドの中にはなく、駐車場の担当でした。日曜日は先生たちの車をボールから守るために下級生と一緒に立たされました。つらくて何度もやめようと思いましたが、やめられない理由がありました。それは『がんばってね』とだけ言って、お弁当を作ってくれる親がいたためです。その一言をはげみに必死に努力し、ついに試合に出られる日が来ました。ただ、親にはこれまでのこともあり、言えませんでした。当然親は来なかったのですが、試合には勝ちました。昼にお弁当を食べようとふたを開けてみると、何と赤飯に一言だけ「おめでとう！」と書いてありました。親はすべてを知っていたのです。その日のお弁当は、涙でしょっぱかったことを忘れられません。』

いつの時代も、親の愛情は変わらないものです。みなさんも、その愛情を力に最後まで頑張り続けてください。ちなみに、この作文の筆者は、その後どうなったのかを話しましょう。中学生時代、1試合にしか出場できませんでしたが、サッカーの夢をあきらめきれず、高校卒業と同時にマラドーナの母国アルゼンチンへ単身海を渡ります。帰国後、当時JFLだった愛媛FCの入団テストに合格し、Jリーガーとなります。名前は、稲若健志（いなわかたけし）さん。40歳を過ぎた現在もサッカー少年の育成に貢献されています。

河東中生のみなさん、今日から再開する部活動やクラブチームの練習にしっかり頑張ってください。試合や大会に出ようが出るまいが、自分の納得する練習を積み重ねてください。そして、稲若さんのように自分の活動を支え見守ってくれる人への感謝の気持ちを忘れないでください。練習着を洗ってくれたり試合の時の弁当を持たせてくれたりする家族への感謝、指導してくれる顧問の先生やコーチの方々への感謝。その気持ちを忘れずに夏の大会へのぞみましょう。